

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年3月25日（水）

2 確認箇所

- ・ Eタンクエリア（図1）
- ・ ブルータンクエリアD（図1）

3 確認項目

- （1） フランジ型タンクの除染作業の状況
- （2） 横置き型タンクの仮置き・保管状況

4 確認結果の概要

（1） フランジ型タンクの除染作業の状況

Eタンクエリアでは、フランジ型タンクの解体作業が進められており、令和6年7月までに全49基中48基の解体が完了している。残る1基のD1タンク（写真1）の底部残水（RO濃縮水）には、アルファ線放出核種が含まれていたため、タンク内のスラッジ等の回収後に、タンク内壁を除染した上で解体を行う計画となっている。当該スラッジの回収作業及び洗浄作業が終了し、タンク内の除染作業が進められていることから、その状況を確認した。（前回確認日：令和8年2月10日）

- ・現場確認時、フランジ型タンク内の壁に付着している放射性物質をレーザーにより除染する作業（以下、「レーザー除染」という。）がタンク脇の遠隔操作室において行われていた。（写真2）
- ・遠隔操作室内ではモニターによりレーザー除染の実施状況を確認することができるようになっていた。（写真3）
- ・遠隔操作室の脇にはレーザー除染に伴い発生する放射性ダストを検出するダストモニタが6台設置されていた。（写真4）

（2） 横置き型タンクの仮置き・保管状況

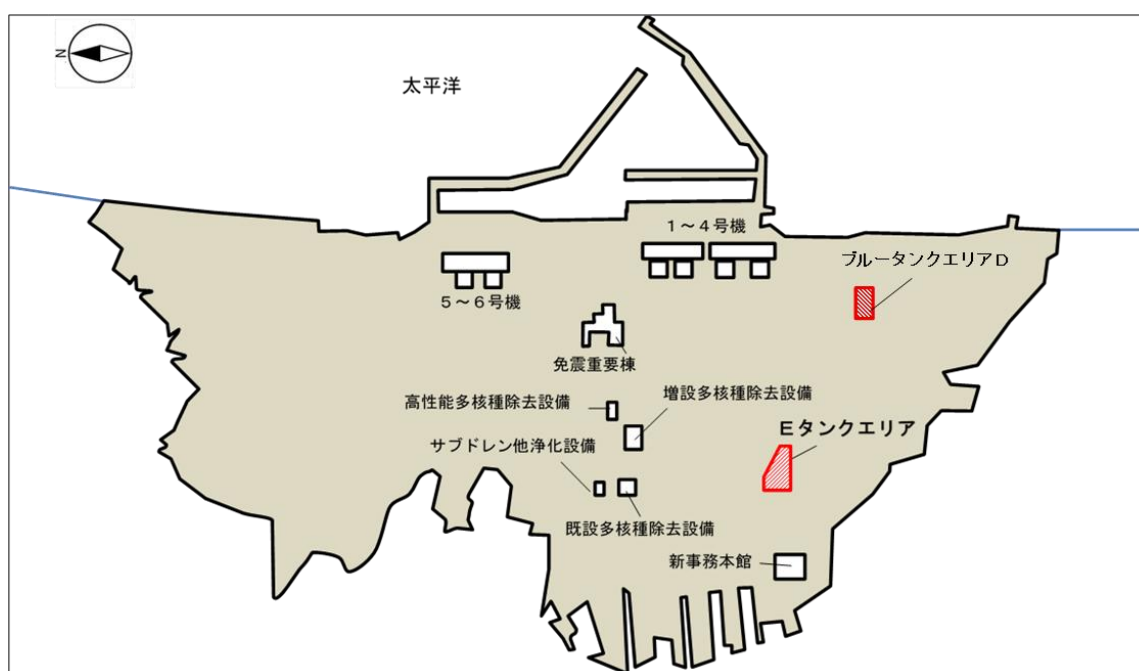
福島第一原子力発電所において、横置き型タンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後に高濃度の放射性物質を含む建屋内滞留水を処理した水の貯蔵に使われていた。その後、水の貯蔵はより多量に水を貯蔵できる縦置き型（溶接）タンクに置き換えられたことから、ブルータンク（全367基）は水抜きされた後、発電所構内のブルータンクエリアAからDの4か所に仮置きされている。

仮置きされているブルータンクの除染・解体試験が定検用機材倉庫Bにおいて行われていたが、令和7年2月に生じた火災により解体作業が一時

停止され、その後、再発防止対策が実施されたことから、令和8年1月から解体作業が再開されている。

今回は、仮置きされているブルータンクエリアDの現況を確認した。（前回確認：令和7年12月22日）

- ・ブルータンクは2段積みで保管されており、固縛帯（ベルト）により固定され、ネットで覆われていた。（写真5）
- ・ブルータンクの一部においては、表面の塗装が剥離していたものの、タンクの破損や内容物の漏えい等の異常は認められなかった。（写真6）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1）フランジ型タンクの全景



（写真2）遠隔操作室の設置状況



(写真3) モニターによる確認状況



(写真4) ダストモニタの設置状況



(写真5) ブルータンクの保管状況



(写真6) ブルータンクの状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。